

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・整数、小数及び分数の概念を形成し、その性質について理解する。 ・数についての感覚を豊かにし、それらの数の計算の意味について理解し、計算が確実にできる。	・二つの数量の関係などに着目して捉え、根拠をもとに自分なりの考えを発信する。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手立て	手立ての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・1位数の加法で指を使う児童が数名いる。ア ・自分の考えを発言する児童が限られている。イ	・歌、計算カード、読み上げカードを取り入れ、繰り返し、1位数の加法を唱え、定着を図る。ア ・図やさくらんぼ計算など、考えを伝えやすくする方法を提示し、活用させ、発言しやすい場面を作る。イ	通年ア 通年イ	・支援が必要な数名を除き、スムーズに足し算、引き算ができるようになった。ア ・ペアでの話し合いを取り入れ、自信をもって発言できる児童が増えた。イ
第2学年	・加法及び減法の計算力に個人差が見られる。ア ・文章を読み取り、正しく立式したり、答えを出したりすることに課題がある。イ	・AIドリルを活用し、自身の課題に合った計算問題に取り組ませ、定着を図る。ア ・わかっていることと聞かれていることに線を引き、確認する。イ	通年ア 通年イ	・AIドリルを活用し、個人差はあるが、加法及び減法の計算を素早く正確に行えるようになってきた。ア ・キーワードを意識することにより、正しく立式できるようになってきた。イ
第3学年	・乗法及び除法の計算力に個人差が見られる。ア ・自分なりの考えをもつことはできるが、進んで発信することに課題がある。イ	・AIドリルを活用し、自身の課題に合った計算問題に取り組ませ、定着を図る。ア ・考えたことをペアや小グループで伝え合う活動を取り入れ、考えを発信したり受け取ったりすることの良さを感じられるようにする。イ	通年ア 各单元の学習で1時間以上イ	・AIドリルに積極的に取り組む児童は、計算力の向上が見られる。基礎的な問題を少しづつ取り組む学習方法が合っている児童も見受けられた。ア ・小グループの活動では、考えを発信できる児童が増えた。全体の場での発信は、ハードルが高く感じている。イ
第4学年	・減法・乗法・除法の計算力に個人差が見られる。ア ・ICT機器を活用して情報を共有することができるが、自分の言葉で説明できる児童が少ない。イ	・AIドリルを活用し、自身の課題に合った計算問題に取り組ませ、定着を図る。ア ・自分の考えを文章にして、発信する機会を設定する。共有した情報を使って、みんなで説明する文章を考える時間を設定する。イ	通年ア 通年イ	・AIドリルに進んで取り組む児童と、教科書問題を終わらせることで精いっぱいの児童に分かれた。ア ・正答を先に確認することで、自信をもって自分の言葉で説明できる児童が増えた。イ

第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・小数・整数の混じった乗除計算に個人差が見られる。ア ・考えはもっていても、文章に表せなかったり、発表したりすることが難しい。また、根拠をもとに考えようとする児童が少ない。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・AI ドリルを活用し、自身の課題に合った計算問題に繰り返し取り組ませ、定着を図る。ア ・自分の考えを書く時間を継続して確保していく。また、根拠をもとに考えを伝え合う時間を増やす。イ 	<p>通年</p> <table border="1"> <tr><td>ア</td></tr> <tr><td>イ</td></tr> </table>	ア	イ	<ul style="list-style-type: none"> ・小数、整数の混じった乗除計算を正確に取り組める児童が増えてきたが、個人差がある。ア ・図や式、既習事項のキーワードなどを用いて考えた過程を説明できる児童が増えた。伝えることはできるが、よりよいものに検討していく児童は少ない。イ
ア						
イ						
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・分数、小数、整数の混じった乗除計算を苦手と感じ、正答にたどり着けない児童がいる。ア ・数直線を用いた、乗法や除法の演算決定に課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・小数を分数に直す、通分する、約分する、などの活動に繰り返し取り組ませ、定着を図る。ア ・問題場面を数直線図に表し、立式の根拠とする活動に繰り返し取り組ませ、定着を図る。イ 	<p>通年</p> <table border="1"> <tr><td>ア</td></tr> <tr><td>イ</td></tr> </table>	ア	イ	<ul style="list-style-type: none"> ・小数・分数、整数の混じった乗除計算に途中の計算を確認しながら行うことで正確に計算する児童が増えてきたが、個人差がある。ア ・数直線に慣れるよう繰り返し活動を行うことで、自信をもって立式する児童が増えた。イ
ア						
イ						

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>1年 ミライシードを活用し、苦手な単元を自分のペースで復習する。 【重点:個別】</p> <p>2年 ミライシードを活用し、個人の課題に応じて、問題に取り組ませる。【重点:個別】</p> <p>3年 ロイロノートで視覚的に分かりやすい資料や補助資料を提示することで、イメージをもちやすいようにする。【重点:個別】</p> <p>4年 自己の課題を明確にして、ミライシードを活用し、問題を解く時間を設定し、習熟を図る。【重点:個別】</p> <p>5年 ミライシードを活用し、個人の課題に応じて、振り返りの問題や発展問題に取り組ませる。【重点:個別】</p> <p>6年 教科書の QR コード等で個別に操作できるようにし、自身の課題に合わせて必要な情報を得られるようにする。【重点:個別】</p>	<p>1年 めあてをもとに、授業の終わりに振り返りをする。</p> <p>2年 授業のめあてを明確に示し、授業の終わりにめあてを達成できたか確認する。</p> <p>3年 自己の取り組みを◎・○・△で書かせることで振り返しやすくし、次の学習への意欲につながるようにする。</p> <p>4年 学習の振り返りを行い、自己の学習の調整を図るようにする。</p> <p>5年 習熟度に合わせて、既習の振り返りをし、学びをつなげて解決できるようにする。</p> <p>6年 授業のめあてを提示し、授業の終末には、次の時間につながるように意識させている。</p>